

令和2年6月23日

中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会

産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会

プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ合同会議(第3回) 提出資料

全国地域婦人団体連絡協議会の プラスチック削減の取組み

全国地域婦人団体連絡協議会
会長 岩田 繁子

全国地域婦人団体連絡協議会について

1 目的

本会は地域婦人団体の連絡協議機関としてその共通の目的である男女平等の推進、青少年の健全育成、家庭生活並びに社会生活の刷新、高齢化社会への対応、地域社会の福祉増進、世界平和の確立などの実現につとめることを目的とする

2 設立時期

昭和27年(1952年)7月

環境保全が含まれる！

3 構成団体

48団体(47都道府県・1政令都市:2019年7月現在)

会長 岩田 繁子(富山県婦人会)



4 環境分野の取組みなど

- ・ 家庭生活並びに社会生活の刷新として、生活の中での環境問題や消費者教育に取り組む
- ・ お肌と環境に配慮した「ちふれ化粧品」の推進
- ・ 今回のテーマである「プラスチック削減の取組み」をはじめ、食品ロスの削減、省エネルギー・省資源対策など多岐にわたる取組みを実施

団体のプラスチック削減事例1

～ちふれ化粧品を通じた「詰め替え」の普及～

地婦連(ちふれん)から名前をとって 名付けられた「ちふれ化粧品」 (現ブランド名:ちふれ)

今ではあたりまえになった詰め替え化粧品。

実は1974年の6月25日に、ちふれが「日本でいち早く」はじめた
ものでした。

オイルショックで原料や資源が不足し、物価が高騰していた当時、
「限りある資源を大切にしたい」「品質を落とすことなく手に入れやすい価格のままにしたい」
という想いで取り組みました。

私たちは、何気なく手に取る化粧品を通じて、「詰め替え」を進め、環境のためにできることを
かたちにしています。



プラ削減:年間309トン

- ファンデーションや口紅、化粧水など43の商品に「詰め替え用」をご用意
- このほか、省資源を重視し、シュリンク包装を積極的に採用するなど、包装の削減にも努めている
- 可能な限りバイオマスプラスチックを採用

団体のプラスチック削減事例2

～研究会等を通じたプラスチック削減対策の情報共有等～

全国地域婦人団体研究会やブロック別会議等での

プラスチック削減の取組みの情報交換や発信

67回を数える全国のメンバーが集まる研究会や毎年のブロック会議などで、傘下団体間での3Rの取組みについて情報交換し、発信。

平成初頭から、リサイクル問題について、行政や事業者団体とも情報交換しながら、消費者向けガイドブックの作成等に取り組んでいます。

(左記は「全地婦連50年のあゆみ」からの抜粋)

ハンドブック『はじめの一步』やさしさへの問いかけ』環境を守る地域活動推進事業の一環としてハンドブック『はじめの一步』を作成した。本事業の企画運営委員・松田美夜子、井手俊彦、坂本弘道(厚生省生活衛生局環境整備課長)3氏の助言を得て、地域におけるリーダーたちの実践を手助けすることをめざした。ゴミと地球環境をはじめ、家庭からのゴミやゴミ処理、リサイクルの現状、私たちにもできることなどを資料とともにコンパクトにまとめた。B6版、45ページ。

なお、翌3年度には第2弾『やさしさへの問いかけ』を作成。こちらは日常レベルの「生活の工夫」的なところから一歩進んで、経済効率優先の社会システムをさらに問い直すものに転換したいという願いを込め、循環型社会へ向けた提言なども盛り込んだ。B6版、63ページ。

レジ袋削減の取組み

2007年には他団体と連携し、「レジ袋減らし隊！」と冠した取り組みを全国で実施し、約1億8,000枚を削減。その他、傘下団体独自の取組みも進めています。

原油という限りある資源を大切に使う気持ちはとても大切なものであり、地域住民の主体的な足元をみつめた取組みのもつ意義を再確認しています。



傘下団体のプラスチック削減事例1 ～東京都地域婦人団体連盟～ ～奈良県地域婦人団体連絡協議会～

「ムダな包装追放運動」の展開(東京都)

- 昭和47(1972)年から継続している「ムダな包装追放運動」
なかでも「**ふろしき持参運動**」はもったいないだけでなく、開始当初の高度経済成長期に環境悪化を招いた、東京湾夢の島「ゴミ埋め立て」問題への消費者運動でもありました。
- 小池都知事による環境大臣時代(2006年)の「もったいないふろしき」パフォーマンス
東京地婦連が長年継続してきた「ふろしき持参」の取組みは、**エシカル(倫理的)な消費の先駆けとも言えます。**



グリーン作戦(奈良県)

- 「わがふる里を美しく、豊かに」を合言葉に**環境美化活動**に取り組んでいます。
例えば、自然環境美化と環境意識の向上を目的に成ヶ島※グリーン作戦を実施しています。
(※淡路島の洲本市由良港から近い紀淡海峡にある無人島で、瀬戸内海国立公園の中に位置)
- 約1時間で、軽トラックいっぱいのごみ量を回収。地元の方から、近県のゴルフ場のボール、フィリピンからの漂着物もあると聞き、この島が海域のフィルター役をしていることを実感しました。
- 水にも溶けず土にもかえらない石油製品について、**私たちにできる身近な3Rで環境と経済が両立した循環型社会を目指すこと、次世代に残す大きな課題であることを確認・啓発しました。**



傘下団体のプラスチック削減事例2 ～鳥取県連合婦人会～ ～群馬県地域婦人団体連合会～

ペットボトルキャップ回収運動(鳥取県)



- これまで焼却されていたペットボトルキャップの回収を進めています。
- 例えば北栄町婦人会では、**H18年から回収ボックスを町内16か所に設置し、再生利用**しています。
- このほか、環境ベント等で「もったいない」をテーマとした寸劇などを通じた環境教育も行っています。

年間42,000個、約1トンを回収

簡易包装や詰め替え商品等の普及啓発(群馬県)

- 行政や関係団体と連携して、「**簡易な包装の商品を選ぼう！**」「**詰め替え商品やリサイクルされた商品を選ぼう！**」を合言葉に、**環境にやさしい買い物を啓発**しています。
- スーパーやドラッグストア等の店頭に立ってのチラシ配布など、**消費者の皆さんに直接呼びかけ**を行っています。



傘下団体のプラスチック削減事例3 ～富山県婦人会～

S60年代～ マイバッグ持参運動を展開

マイバッグ持参率10～20%にとどまる

H19 富山県庁に、レジ袋削減のための事業者との協議の場の設置を要請

富山県レジ袋削減推進協議会(消費者団体・事業者・行政により組織)
において、削減方策を検討

レジ袋無料配布廃止(有料化)を決定

H20.4 富山県内全域でレジ袋無料配布廃止スタート(全国初)

取組み事業者数 H20:28社 208店舗 R2:52社 508店舗

マイバッグ持参率 H20:92% H30:95%

R2年7月には、この取組みを参考に全国一律の有料化義務化がスタート！！



H20年4月 レジ袋無料配布廃止の啓発



買い物マナーの啓発



R2年1月 小泉環境大臣訪問

傘下団体のプラスチック削減事例4 ～富山県婦人会～

H25 協議会を改組して「とやまエコ・ストア連絡協議会」を設立し
「とやまエコ・ストア制度」を立ち上げ

レジ袋無料配布廃止に加え、店頭での資源回収などに
取り組む事業者を応援。団体は登録審査などを担当しています。



お店での資源回収の様子

【とやまエコ・ストア制度の概要】

事業者の取り組み

県民の取り組み

1 レジ袋無料配布廃止



マイバッグを持参して
お買い物を楽しもう!

- お買い物時はマイバッグはたたみましょう
- お店のカゴは、所定の場所に返却しましょう

2 資源物の店頭回収

- トレー、牛乳パック等(スーパー)、ハンガー(クリーニング店)、古本等(書店)、古着(衣料品店)など



登録店舗に
資源物を持ち込もう!

- トレー等は洗浄し、水切りしてから持ち込みましょう
- 電池、古本等は分別して回収ボックスに入れましょう

3 適正な店舗温度設定＋業種ごとのCO₂削減項目

- 《業種ごとのCO₂削減項目(例)》
- 食品ロス・食品廃棄物削減対策(スーパー等)、詰替え商品の取り扱い(ドラッグストア、ホームセンター等)、省エネ製品の効果の明示(家電量販店)など



お店のエコな取り組みを
理解し、協力しよう!

- 店内が多少暑く／寒くても理解しましょう
- 県産食材、詰替え商品、省エネ製品をできるだけ選びましょう

自由項目 店舗独自の環境配慮行動

- (照明のLED化、地域の清掃活動など)



エコ・ストアへの
協力・支援をきっかけに、
エコライフの実践を
“あたりまえ”にしよう!

取組み事業者数

H25:53社 511店舗 ▶ R2:72社 1,077店舗

資源回収量

H25: 1,768トン (うちプラ 969トン)

H30: 3,506トン (うちプラ 1,728トン)

【トレイ】



スーパー

【古着】



衣料品店

【その他】



ハンガー
クリーニング店



プランター
花屋



ペットボトル
酒屋



お店での現地確認



とやまエコ・ストア制度

シンボルマーク「エコぼうや」

傘下団体のプラスチック削減事例5 ～富山県婦人会～

プラスチックトレイ削減・転換へ

とやまエコ・ストア連絡協議会として、日常生活で多く排出している食品トレイについてスーパー等の事業者におけるノートレイや紙トレイなどへの転換を検討中です。

削減・転換のイメージ



〈プラスチックトレイ〉

○家庭にあふれるトレイをどうにかしたい！
○リサイクルより一歩進んでプラスチックの
“排出削減やエコ化転換”をしたい！

R元年度 ～実態把握～

消費者540名及び食品スーパーへアンケート調査を実施

消費者

- ・ 9割以上の方が、主な野菜、果物はノートレイでもよいと回答
- ・ 約7割の方が、プラトレイの転換に伴う負担増(5～10円程度)に協力できると回答

食品スーパー

- ・ 野菜、果物については、プラトレイ以外での提供も可能
 - ・ 肉・魚介類などプラトレイ以外での提供が難しいものもある
- ⇒ ◎ 野菜、果物のノートレイ商品を一層普及していく
◎ 肉・魚介類、惣菜などの代替トレイへの転換を進める

削減

ノートレイ



〈袋〉



〈ラップ〉



〈ばら売り〉

転換

代替トレイ



〈紙主体トレイ〉

出典:㈱環境総合研究所HP
(<https://ecobioplastics.jp/>)



〈紙トレイ〉



〈バイオマスプラトレイ〉

出典:㈱朝日化成HP
(<http://www.kk-asahi-kasei.co.jp/>)

R2年度(予定) ～モデル実証～

- ① チェンジ・トレイ実証モデル事業
 - ・ スーパー等でプラトレイの削減・転換のモデル事業を実施
 - ・ 削減効果、消費者の反応などを検証し、結果を事例集として取りまとめ
- ② 事業展開の検討
モデル事業で判明した課題の解決策や他店へ展開する方策をとやまエコ・ストア連絡協議会で検討
- ③ モデル事業を通じた啓発事業
イベント等を通じ、事業者や消費者へのトレイ削減・転換の必要性を周知

◎ レジ袋削減や資源回収促進など、足元からの取組みをきっかけに
消費者の「ライフスタイル変革」は進むと考えています。